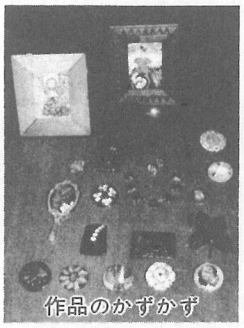
公民館クラブ紹介⑦
手づくりの作が魅力
七宝焼クラブ

七宝焼とは、七つの宝石をちりばめたように美しい焼き物。銀や銅などの面にくぼみをつくり、そこに酸化鉛・酸化コバルトなどを含む種々の色のエメラルを埋め、熱して熔着させ花鳥・人物などいろいろの模様をあらわしたものをいいます。

七宝焼クラブのクラブ員は十三名。公民館講座を終了した方たちが引き続いて加入していますので、5年・10年のキャリヤぞろい。今は特別に先生はいませんが、お互いに教えたり教えられたり研究しながら学んでいます。


作品のかずかず

活動は文化会館で、月1回第2火曜日の午後1時から4時までとなっていますが、なるべく会員の都合のよい日を選んで活動しています。

取材したときは、秋の文化祭に向けて、作品づくりに取り組んでいました。作品づくりは、7月頃から始め、ブローチ・ペンダント・ネックレス・壁掛けなど身近なアクセサリーがほとんどです。

「プレゼントすると大変喜ばれるので、いつでもつくれるという気持ちからあげてしまう。」とはクラブ員の石橋もと子さん。「焼き上がりの色を想像しながら色付けをしているので、釜から出すのが楽しみ。」と秋葉悦子さん。クラブ長の大野靖子さんは「買ったものと違って同じものは2つとありません。みなさんもぜひ七宝焼クラブで手づくりの品を作ってみませんか。」と、クラブへの加入をすすめています。申し込みは、大野靖子さん（☎82 3489）へ

おしゃべりの中にもデザインのヒントが生まれる

ソフトバレーボール準優勝
10/12

山武郡内の農家生活改善グループ員による農村婦人体力づくり大会で、ソフトバレーボールに出場した中台チームはみごと準優勝を成し遂げました。来年も頑張ってください。

文芸

俳句

彼岸会や年寄りばかりで僧も又　若梅あやめ

口すすぐ五十鈴の流れ秋日濃し　伊藤　啾霜

農道に狗尾草や蛇笏の忌　海保　きみ

父と母ひとつの墓や木の実降る　勝又やすのり

秋の夜や継ぎ足す老ひの一人酒　鈴木　草庵

ペン置いて句の深さ知る蛇笏の忌　鈴木　南知

幾曲り昇る仙石芒原　戸村　静華

置きざりの風鈴佗し葉月果て　行方はじめ

コスモスや駅長官舎ありし跡　藤代　ゆう

秋風や墓にも競ひごころ見え

（選者）土屋　栗水

短歌

群れなしてあきあかねとぶ夕の田に母の香のする風わたりをり　八角　三枝

可愛いいと腕にとまりしはえみつつをさなはそっと息を吹きかく　中越美代子

作業衣の中にこもれる体臭が息する度に襟より臭ふ　永藤　滋

手刈りされ稲架にほされる稲あるを山峡の田にめづらしみ見る　土屋　五六

誘ひ合はすやうに夕べを群がりて鳥は社の森に向へり　津田　若菜

独り居の灯しも一つ秋の夜の心静かに孔子繙く　土屋　栗水

妖精のひそみをらんか地下ふかく熟成をまつワイン貯蔵庫　西山満里子

居眠りて落せし本を拾ふとき車内の視線我にあつまる　萩原　信一

父母に吾はなざりし誕生祝ひ子より孫よりけふまた受くる　吉岡　信子

幡のぼり小林なせるあひをゆく桝席に相撲始めて見むと

（選者）斎藤つね子